

報道関係各位

平成27年11月25日

国立大学法人 東京医科歯科大学

「南米チリ共和国との国際医療協力について」 — チリの大腸がん検診の早期発見へ貢献 —

【ポイント】

- 東京医科歯科大学は、2009年から南米チリ共和国と国際医療協力を実施してきました。
- 本学の指導のもとチリで2012年から大腸がん検診が開始され、多数の大腸がんが発見されました。
- 活動実績は関係各所に評価され、2014年には中南米を歴訪中の安倍昭恵総理夫人による訪問を受けました。
- このたび国際的な学術誌でも取り上げられ、本学をはじめとする日本の医療の質と、技術指導が世界トップレベルであることが示されました。

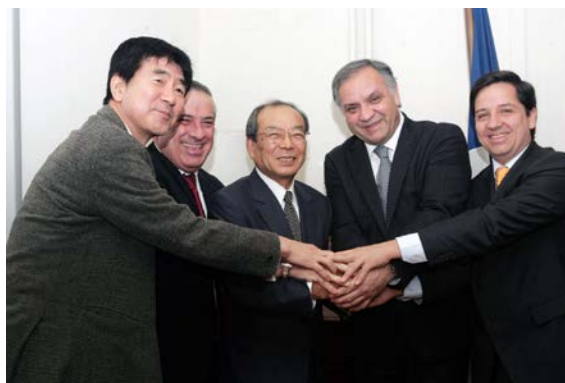


安倍昭恵総理夫人によるチリ国立サンボルハ病院公式訪問（2014年7月30日）

東京医科歯科大学は、南米チリ共和国に専門家を派遣し、チリ保健省や現地医師らと共同で大腸がん検診の推進を実施しています。2012年から開始されたがん検診により、多くの大腸がんが早期の段階で発見されるようになりました。開始以前の検査結果を大幅に上回るもので、本学の国際協力が多大な成果を挙げて、現地における本学の指導が貢献していることが確認されました。活動の拠点責任者である河野辰幸教授（消化管外科学分野）、江石義信教授（人体病理学分野）、と岡田卓也助教（消化管外科学分野）を中心としたグループはこれらの結果を集計し、国際科学誌 Cancer（キャンサー）に、2015年10月7日オンライン版で発表されました。

【研究の背景】

チリ共和国で大腸がんによる死亡率が急増していることを受け、チリ政府から東京医科歯科大学へ協力要請があり、本学は2009年にチリに専門の医師を継続的に駐在派遣、現地で医療活動や学術協力を行ってきました。派遣された本学教員は、チリ保健省や現地病院と協力してチリ人医師らに技術指導を行って準備を整えた後、2012年から大腸がんの検診を開始するに至りました。検診法として、便潜血検査と大腸内視鏡検査を組み合わせた、日本式の検診法が導入されています。



2009年7月14日、協定締結時の様子

左より江石義信医学部長、マニャリッチ前保健大臣、大山喬史 TMDU 前学長、
エラソ元保健大臣、CLC ロペス医師

【研究成果の概要】

2012年6月から2014年5月にチリでの大腸がん検診から得られた成果と、本学教員の指導により得られた効果を検討しました。指導以前のものとの検診結果と比較すると、受診者全体の中のがん発見率は1.0%（以前は0.2%）と、約5倍に増加しました。大腸内視鏡検査についても、検査完遂率や大腸ポリープ・がんの発見率が大幅に改善され、検査診断技術の大幅な向上が見られました。



本学教員による指導の様子

【研究成果の意義】

消化管がん(食道がん、胃がん、大腸がんなど)の診療技術は、日本が世界のトップレベルであり、他国から医療協力や講演の要請が多数リクエストされています。本研究では、わが国の臨床診断レベルの高さと、他国への技術指導が目覚ましい成果を挙げ得ることが数値として明確に示されています。また、本研究で使用された検査機器のほとんどは日本製の機器が使用されており、医療技術だけでなく医療機器、検診システム等を各国に提供する際に、本学活動の成果が有効なツールとして活用できると考えられます。

【問い合わせ先】

<研究に関すること>

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
消化管外科学分野 河野 辰幸 (カワノ タツユキ)
岡田 卓也 (オカダ タクヤ)

TEL:03-5803- 5254 FAX:03-3817-4126

E-mail: kawano.srg1@tmd.ac.jp

t-okada.srg1@tmd.ac.jp

<報道に関すること>

東京医科歯科大学 広報部広報課
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL:03-5803-5833 FAX:03-5803-0272
E-mail:kouhou.adm@tmd.ac.jp